

こうの町 議会だより

未来に向けて スタートダッシュ

12月定例会

.....2P～3P

新庁舎の外観決まる

一般質問	4P～8P
開かれた議会	9P
行政調査	10P～11P
委員会報告	12P～15P
私のひと言	16P

議会のことをわかりやすくお伝えします



12月定例会

一般会計6,358万円増額

予算総額34億4,228万円に

補正予算

一般会計

歳出の主な内容

●民生費

障がい者福祉費
1,308万円増額
介護給付費・訓練等給
付費。

●災害復旧費

5,600万円増額
町道、農道、林道、農
地、河川の災害復旧費。

特別会計

歳出の主な内容

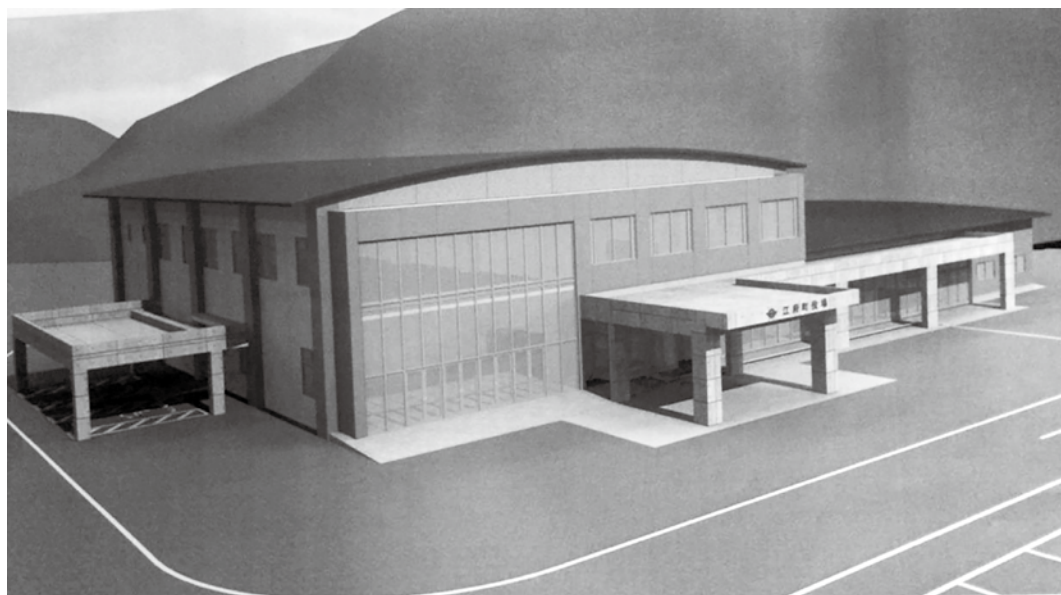
●介護老人保健あやめ

714万円減額
空調設備工事費の入札
減によるもの。

平成30年12月定例会は6日に召集され、会期を13日までの8日間と定めて開かれました。今回の定例会には、平成30年度の一般会計補正予算と特別会計補正予算、条例改正など20議案が提出されました。

議会ではこれらについて慎重に審議した結果、いずれも原案どおり可決した。

7日の本会議では5名の議員が一般質問に立ち、活発な議論を展開しました。



平成32年度までに建設される新庁舎外観図



具体的提言がなされた中学生議会

条例

▼職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告により勤
勉手当を0・05月引上
げ年間期末手当合計4・
45月とするもの。

▼特別職職員・議員報酬に関する条例の一部改正

法律改正により期末手
当を0・05月引上げ年
間3・35月とするもの。

庁舎特別委員会

12月10日庁舎特別委
員会に於いて新庁舎の
外観図が示された。各
議員から細部にわたっ
て様々な意見が出され
た。今後詳細設計に入
り3月中に設計を完了
する予定となる。

全員協議会

▼エバーランド奥大山スキー場について

12月11日選定委員会
が開催され指定管理者
指定申請が出されてい
た「御机未来合同会
社」代表高津孝司氏に
対し、事業計画、収支
予算等応募書類につい
て説明を聞き慎重に審
査した結果、指定管理
予定者に内定された。
今後協議を進め、協議
がまとまれば指定管理
者として契約する予定
である。

▼今後の情報通信整備について

平成22年NTT西日
本により全域に光ケー
ブルを設置した。平成
33年3月に契約が終わ
るのを受け、継続する

中学生議会

のか、中海テレビを導
入するのか、両方につ
いてメリット・デメリ
ットを示し検討した。
町の負担や町民個人の
負担が多くなる点で、
現在のNTTと再契約
の方向で今後検討を行
う事となった。

恒例となった中学生
議会が11月6日日本議
場において5名の代表
による一般質問がなさ
れた。今年は、事前に
中学校においてアント
レプレナードシップ（課
題に取り組む手法）を
勉強し、空き家対策や
人口減少問題等、具体
的な提案となった。町
長答弁もそれに応える
ものとなっていた。今
後の発展を期待したい。

町民からの意見聴取方法

町長と語ろう 会の実施を

質問 町長は就任以来、いろいろな手法を取り入れ、住民説明会や研修会、または町民からの意見聴取を行ってこられたが町内一か所での説明会を行っている。参加者はいつも同じ顔ぶれで少人数で、現状のやり方では今後の政策に反映させるだけの意見聴取になっていないのではないか。歴代町長が行なっていた各集落に向いての「町長と語ろう会」のように集落説明会等に変更する気はないか。



三好 晋也

動画で一般質問



三好議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

町長答弁

希望がある集落から声があればやってあります。それに今のやり方を加えたということ

質問

現状のKJ法を活用したワークシヨップ方式では幅広く町民の意見を聴取したことはならないのではないか。

町長答弁

今まで大体いろんな集落での会合に出ますと、声の大きな方、あるいは出られる方自体が世帯を代表される方、そういう方の声を中心でした。小さな声でもきちっと届くことが重

要だ。このやり方は非常にいいやり方だと思う。

質問

この度、募集を始めた公共施設のあり方委員会の募集要項では、応募資格が漠然としている。施設を利用した経験のある方や高い専門性が求められると思う。人選の仕方を見直す考えはないか。

町長答弁

施設を利用される方は一般の町民の方です。声の出にくい方、あまりそういう会に参加されない方の意見を求めたいと思いついてすべての世代に参加して頂けるような方法を考えました。

質問

議員は常日頃から、多くの町民から様々な意見、要望あるいは不満等を聞いて、議会場で委員会審議や一般質問等を通じて町長はじめ行政と議論

してきたが、今日のテーマである各種町民説明会及び町民からの意見聴取の方法に對してどう違うのか、あるいは同じなのか。

町長答弁

当然、議員さんも住民の皆さんの声を充分

聴いて、それを届けていると思うています。そこに区別をつける気はありません。そのご意見を充分尊重していきたいと考えています。



町長との意見交換会

将来を見据えて、今やるべき施策は



子供の国保育園 日野川子ども太鼓

専門職員の確保と職場環境づくり

質問 いま、専門職員確保が困難になっているが、職員の確保体制の強化は。また、職場環境の悪化は、退職者の連鎖反応が起きる。



森田 哲也

動画で一般質問



森田議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

退職職員を出さない職場環境対応を伺いたい。

町長答弁

受験者の確保は、重要な課題。そこには、良好な職場環境は大きな要素。風通しの良い組織づくりをめざしたい。

質問

学校や保育園との意思疎通は重要課題。風通しの良い職場づくりを教育長に伺いたい。

教育長答弁

私が直接個人面談、集団面談を実施して、風通しのいい職場づくりに努めたい。

中学生議会の今後の支援体制は

質問

中学生議会がますます充実してきた。いつまでも江府町に關心を持ち続けていく支援体制を築くべきと考える。

町長答弁

2年目という事で、成果があらわれたと思っている。将来の江府町を担っていただく人材を確保したい。それを考えた支援体制を展開していきたい。

質問

そうであれば、中学生議会は、学校教育から社会教育へシフトしていつては。これを機会に、学社連携にして、中学校卒業後の支援対応を充実すべき。教育長に伺う。

教育長答弁

中学校の卒業以降、町とのつながりが弱くなっていると認識する。この事業により、中学

校卒業後の展開をぜひ研究していきたい。

緊急災害時の対応と今後の対策は

質問

今回の教訓は、将来に向けた対策が求められる。情報伝達方法が単発的で、町民に危機感が伝わらない。また、通行止めの箇所等の確かな情報提供が必要と考えるが伺う。

町長答弁

反省を踏まえて、時間を追って定時放送的にやるとか、重ねて放送するなど研究したい。

質問

情報伝達が遅く、警察等から情報が入り避難するという事があった。関係機関とのタイムリーな情報交換ができる体制に見直すべきでは。

町長答弁

情報連携について、関係機関と情報確認をするなど対応強化した。

お互いが十分連絡を取り合える体制を今後さらに構築していきたい。

質問

消防団と役場職員が兼務の状態が続いている。対応は十分に取れるのか。また、被害があった箇所の今後の対策として防護壁の設置、河床の掘削等対策が必要と思うが伺う。

町長答弁

防護壁については緊急には難しいが、河床の掘削については、日野振興センターで実施するとの確約を頂いている。今後国等へは、要望していきたい。

総務総括課長答弁

災害時対応は、職員業務を優先し、本部対応、土木的対応、住民支援対応の3班に分けて実施している。緊急具合により消防団活動に回ります。

巨大化する自然災害への対策は



佐川地内国道冠水後の状況

**繰り返す豪雨災害
備えは、対策は、
教訓は**

質問 7月豪雨の経験
は10月24号台風におい



川端 登志一

動画で一般質問



川端議員の一般質問は
動画サイトyoutubeで
ご覧いただけます。

て生かされたか。

町長答弁

今回の24号について
はできていない部分が
あった、そこについて
は反省すべきは反省し
今後に十分生かしたい
と考えている。

質問 新庁舎上流側の
国道冠水について今後
の対策は。

町長答弁

河川断面の確保のため、
河床掘削を実施しま
す。現在県に要望中
です。

質問 国や県との連携
や情報の共有は。

町長答弁

大きな被害が想定さ
れるときには県から
「リエゾン」という情
報を仲介する県職員が
役場に常駐します。こ
の度は県のほうもあち
こちで災害が発生し情
報の把握に手間取り、
情報の共有に大幅な遅
れが発生しました。ま
た、国のほうも今まで
想定しなかったような
例が頻繁に起きるので、
中国地方整備局長と町
長とのホットラインの
設置を計画しています。

質問 町内の企業、団
体との災害協定状況は。

町長答弁

現在、4社と協定を
行っています。追加に
ついては、地域防災計
画の中で検討します。

**中学生議会の
展開と活用策は**

質問

アントレプレ
ナーシップ・スクール
は将来に向け町の存続
と町民の幸福を実現す
るため有効な事業です。
中でも中学生議会は代
表的な行事と考えます。
将来に向けどの様に展
開し活用していくか所
見を伺う。

町長答弁

中学生議会に対して
は思い入れがあります。
本当の議会と同じよう
にやっていきたいと考
えています。中学生だ
からと言って手を抜く
とか甘くするとかでな
く真正面から受け止め
真正面から答えてあげ
ることが生徒たちに
とって本当にいいこと
と考え実行しています
し、これからもそうし
ていきます。

質問 質問者に対する
結果報告の状況は。

町長答弁

個別の報告や連絡は
行っていない。町報と
か新聞にできるだけ取
り上げていただく努力
はしています。

質問

桜のライトアッ
プ、イチヨウのライト
アップ実施に際し提案
者を含む中学生の係わ
りがなかったようだが
なぜか。

町長答弁

学校には声を掛けま
したが、時間の調整が
つかず断念しました。
取り組みが遅く反省し
ています。
今後は、故郷にかか
わる良い機会であるこ
ういうことを意図的に伝
え、子供たちが地域に
目を向ける意欲を育て
る取り組みが必要だと
考えます。

硬直する財政を見据えて



三輪 英男

動画で一般質問



三輪議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

今後の硬直する財政について

質問 長期的な人口減少による町税の伸び悩

み少子高齢化社会の進展に伴う扶助等経費の増大などによる財政状況の悪化が見込まれる。更には一層厳しさを増すであろう地方交付税の減少が想定されます。



廃校となっている旧明倫小学校

又、公共施設等管理計画の見直しも検討すべき時期にきていることから、今後の対応は、町長のご所見を伺う。

町長答弁

ご指摘の通り、この人口減の中、従来通りの公共施設の状態でのそのままでいけるとは思っておりません。

また維持するのも困難であるというふうに思っております。特に箱物、公共施設につきましては、機能が重複

するようなものを新たににつくることはあり得ません。町全体のことを考えて十分な議論をして財政破綻をしないように、有効活用できるように提案してまいりますので御理解を頂きたいと思います。

集落営農の後継者育成は

質問 法人営農の後継者確保については、農

の雇用事業等の活用により、集落内の各団地ごとに管理担当者を置き責任をもって経営参画できる仕組みを構築することが、行政の指導と相まって可能性を広げていくと考えますが、町長のご所見を伺う。

町長答弁

必ずしも法人をつくることだけが形ではなく、これはやっぱり農業委員さんなんかも非常に重要な役割を担っていると思っておりますので、そういう働きかけはこちらの方からもしてみたいというふうに思っています。そこで、できることは町も支援をしていきたいと思えます。ご理解を頂きたいと思います。

遊休農地を活かした6次産業化推進事業は

質問 奥大山の豊かな自然環境で栽培されたソバを特産品振興の中

心作物と位置づけ、規模拡大による経営効率の軽減や産地化を推進し地域農業の活性化、更には観光客の誘致等に期待したいが、その方向性についての町長のご所見を伺う。

町長答弁

これに関しては、実は結構ソバの作付けは進んでいます。町の方も支援していますが、ソバをつくるだけではなく、例えば、道の駅で販売とか、セットで売ることも奥大山の一つの特産品として考えているところです。

サントリーさんも積極的にソバの振興をされておられます。町としても、こういった活動に支援してまいります。

防災無線で危機管理を



空場 語

動画で一般質問



空場議員の一般質問は
動画サイトyoutubeで
ご覧いただけます。

災害時の防災無線の通告

質問 台風24号による集中豪雨により、大きな災害が町内で多数発生しました。

何十年に一度の災害が発生したにもかかわらず、防災無線による通告、通報がなされず、被害に遭われた住民の方の不安は、相当大きかったと思います。

豪雨警報が発令されたの、菅沢、下蚊屋ダムの放水についても、防災無線による通報、通告がなく、避難の放送がされなかったことについて、町長に所見を伺います。

町長答弁

不手際があったので、反省しております。

避難所のあり方について

今後はしっかりと行うように致します。

質問 現在、避難所は地域の公民館、町として小学校と健康福祉センター、町所有の施設等があります。避難所が土砂災害危険区域が半数以上あり、避難には適していないと思われる。

又、旧明倫小学校も避難所の指定になっているが、水が出ない、耐震工事がしていない等、不適格ではないか、町長の所見を伺います。

町長答弁

地域に避難する場所がない、ということも現実問題です。

江府町の危機管理体制は

ハード面、ソフト面を合わせて見直しをします。

質問 今回の災害時に、伯耆町では、下蚊屋ダムの放水についても、浸水が予想される地域の溝口の町中に、消防車で避難の呼びかけを行っております。避難をしない家には、電話で確認を行っております。

江府町では、どのような対応だったのか。町長の所見を伺います。



出初め式一斉放水

江府町の財政状況について

町長答弁 今回の台風24号では、5ヶ所で増水、土砂災害がありました。消防団の3分団まで出動して、手が回りませんでした。住民の方への通報は大切なことです。見直しを検討します。

質問 江府町の財政状況を財政指標でみると、一人当りの公債負担率が126万円と、鳥取県で一番高く、将来負担比率も70%と、西部町村の中でも一番高い指数となっております。

今後、新庁舎の建設、保育園の建替えが考えられ、水道、下水道、インフラの整備に、多大な負担を強いられるが、今後の財政運営をどのようにされるのか。町長の所見を伺います。

町長答弁

私も従来から、財政状況は厳しいことは承知しております。やるべきこと、節約するところとを、見極

めてやります。上下水道料金は、約10年間、値上げをしておりますので検討します。

目的基金を積み立てて、借金を減らしては

質問 江府町は現在、70億円の借金を抱えています。

庁舎建設基金は、1年間1億円貯めることができます。今後建設に必要な保育園についても、今から基金を積み立てて、将来に借金が残らない財政運営をお願いします。町長の所見を伺います。

町長答弁

公共施設の建設は、縮めるところは縮めて必要なものを有利な制度を活用して、また、お金を集める方法も考えてやっています。

開かれた議会を

江府町議会は、町民のみなさまに信頼される議会となるために政治倫理条例や議会基本条例の制定、住民懇談会の実施など今まで色々な改革を行ってきました。

議会改革特別委員会では12月議会から一般質問の在り方を変え、再質問は2回までとしていたのを1時間の持ち時間内で何回でも行えること、町長が議員に対し反論権をつかえることを確認し実施しました。実際に、多くの議員が何回も質問をし、町長も反論権を使うなど白熱した議論が交わされました。江府町のホームページで動画を見ることが出来ます。

今後も、活発で開かれた議会になるために多くの皆様のご意見をお寄せください。



議長報告

『第62回町議長会全国大会』

地方創生の実現を目指して

平成30年11月21日（水） NHKホール

私たち議会議員は、それぞれの問題点、課題について全国議長会で地域に寄りそうように小さな町村の声をまとめて国に要望し、制度等具体的取り組みをしています。

5つの大きな取り組みと、25の要望にまとめ又それぞれの地域の問題点を取り上げた。

- ◎ 東日本大震災、熊本地震及び豪雨災害からの復旧・復興・災害対策の確立。
- ◎ 地方創生の更なる推進。
- ◎ 町村税財源の充実強化。
- ◎ 議会の機能強化及び議員のなり手不足の環境の整備。
- ◎ 参議院選挙における合区解消の取り組み。

鳥取県関係

- ◎ 中国横断自動車道姫路鳥取線及び岡山米子線の拡張整備促進。
- ◎ 山陰自動車道早期建設（鳥取～小月）
- ◎ 地域高規格道路整備促進
- ◎ 国道2号及び9号の整備並びに山陽山陰連絡道の整備
- ◎ 山陰新幹線及び山陽・山陰・四国を結ぶ中四国横断新幹線の早期実現。

陳情処理

件 名	提出者	審査結果
「安倍内閣の退陣を求める世界平和7人委員会のアピール」を支持する意見書提出に関する陳情	基地のない平和で豊かな沖縄を目指す会 代 表 芳沢 あきこ	不採択
青少年健全育成基本法制定を求める意見書の提出について	全日本青少年育成アドバイザー連合会 会 長 山本 邦彦	採 択
教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るための、2019年度政府予算に係る意見書採択の要請について	鳥取県教職員組合西部支部 支部長 西田 周郎 鳥取県高等学校教職員組合西部支部 支部長 藤波 敦夫	趣旨採択
待機児童解消、保育士等の処遇改善、保育の無償化のための必要な措置を求めるための意見書の提出を求める陳情	鳥取の保育を考える会 会 長 石井 由加利	採 択

地方行政調査

平成30年10月16日～18日

鹿児島県 さつま町

農作物のブランド 化と人口減対策に ついて

「さつま町の概要」

鹿児島県の北西部に位置し、平成17年3月に、宮之城町・鶴田町・薩摩町が合併して出来た町である。町の基幹産業は農業であり、水稻、南高梅、トマト、肉用牛等の生産が盛んであり、全国に誇れる種雄牛の産地でもある。人口、21,031人町の面積は303km²である。認定農業者は229人、集落営農組織19団体、農地集積は334haである。農業産出額は耕種部門31億8,300万円、畜産部

門108億2,000万円となっている。第二次さつま町総合振興計画の産業経済部門における農業の進行について、目標数値を掲げた推進計画として具体化するのためのものであり、今後の農業施策を

推進するための基本となる計画として位置付けている。計画期間は平成28年度から32年度までの5年間である。目指す農業の姿として

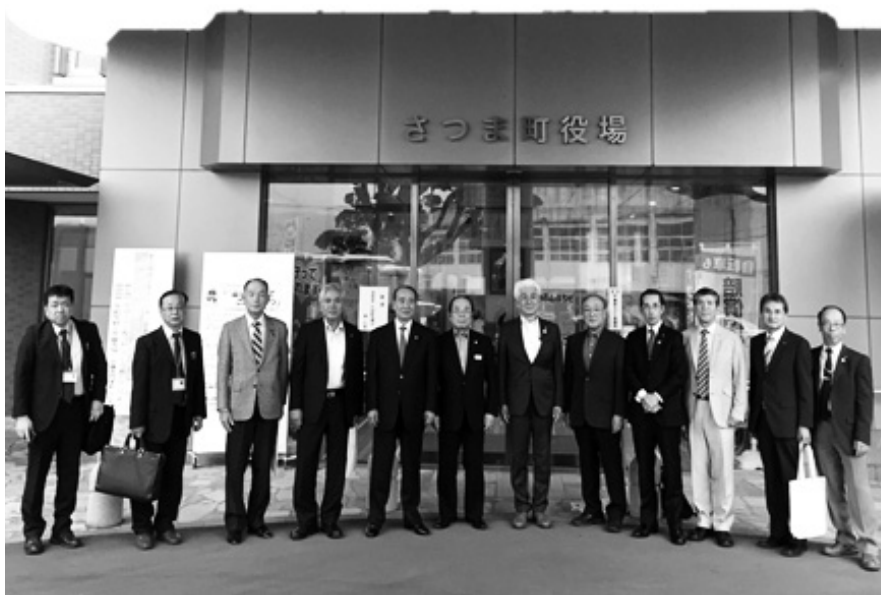
①地域ぐるみで支える「集落営農」の確立
②企業の経営感覚を

持った認定農業者をはじめとする担い手の育成確保
③重点品目の拡大による産地ブランドの確立
④水田の有効活用の推進
⑤良好な農村の風景や景観がある農業・農村社会の維持保全
⑥全国に誇る「さつま牛」の確立
⑦竹林資源の有効活用
⑧生産から加工・販売までの6次元産業化の推進
⑨有害鳥獣対策の強化を掲げている。

考察

さつま町は、わが町江府町とは人口も面積も規模の大きな違いはあるが、人口減や農業の抱える問題は同じである。その中で、集落営農の組織率は着実に効果を上げ、さつま牛をはじめとする農産物のブランド化にも成果を上げている。

一方、人口減対策にも思い切った住宅取得購入補助金制度を実施し、確実に成果を上げている。参考にするべきことが多々あった。



さつま町役場前にて

「人口減対策は、」
①空き家情報バンク登録数延べ54件うち37件成立。対象家屋には平成29年度から家財処分補助金制度（上限5万円）を新設
②移住定住促進補助金制度として町外、町内問わず住宅取得

鹿児島県

錦江町

住民主体のまちづくりについて

【錦江町の概要】

錦江町は平成17年に大根占町と田代町との合併により誕生した町で、大隅半島の西部に位置し鹿児島湾に面し人口7,635人面積163km²である。

【錦江町「未来づくりプロジェクト」とは】

『錦江町地方創生総合戦略の事業の総称』

「目指す未来像」

- ①住民や移住者が、明日への希望を持ってビジネスや地域づくりにチャレンジできる町。
- そして、彼らを本気で応援できる町。
- ②なりたいもの、やりたいことがある子供たち

ちが、夢にチャレンジできる町。そして彼らを本気で応援できる町。

- ③住民と移住者による協働で世界で勝負できる価値創造型ビジネス創りや、新たな集落支援ソーシャル活動等にチャレンジできる町。
- そして彼らを本気で応援できる町。
- ④住民が胸を張って錦江町に住んでいると言える町。誇りとワクワク感に満ちた希望の『MIRAI』が想像できる町。

「未来づくりプロジェクトの基本戦略」

①プロジェクトを支える『土台』づくり

「町民のまちづくりに関する熱量増加『自分ごと』として捉え、主体的に『未来づくり』に参加

- ②『いつと』づくり
- ・町内で頑張っている

農林水産・商工事業者の「利益増加」や後継者・承継者誘致の仕組み整備

- ・子ども達が憧れ、町内にUターン就職したいと思えるような未来のビジネス創出
- ・10年以内に必ず現実となる第4次産業革命を担える人材輩出を強く意識した環境整備
- ・高齢者の方々による社会貢献型の小規模ビジネス促進

③『なかま』づくり

- ・移住者を増やす
- ・回帰者を増やす
- ・支援者を増やす
- ・投資者を増やす

④『ひと』づくり

・町民・児童・生徒に情報を使い世界とつながる人

⑤『新しい絆』づくり

- ・各世代が『役割』を担い、元気に活躍できる『地域』づくり
- ・ゆるやかに柔らかに

繋がり、支え合える『互助関係』づくり

- ・新住民と在来町民をゆるやかに繋げ、相乗効果を町の力に変える『場』づくり

考察

錦江町の未来づくりプロジェクトの実行体制

- ・みらい協議会・理事会↓公募に応じた若手住民12名
- ・みらい協議会の事務局↓1名を除き町外出身 青森県・秋田県・鹿児島市・鹿屋



未来協議会研修風景

市・・・ヨソ者

- ・行政↓未来づくり課・・・1名は広島出身の移住定住専門員
- 以上の構成により、錦江町未来づくりプロジェクトの特徴である『厳しい現実』を逆手にとって、子や孫のために希望あふれる『未来』を創り、繋ごうの合言葉を掲げている。
- 三位一体の執行体制と「三方良し」の活動理念を基本に、町民・議員・町幹部・町職員と一体化して共通課題を共有しながら、どんな町(未来)にしたいのか、どんなに人口が減っても町は残る、住民が放棄しない限り自治はあり続ける、将来の町を誰に託すのかといった懸案に対してしっかりと議論し、多様性のある未来志向型の対応が際立っており、大変参考になりました。

所管事務調査報告書

総務経済常任委員会

調査日 平成30年10月26日

市民農園「カサラファーム」

○活動状況

管理者1名と協力者数名にて農作業を通してカサラファームと江府町を各地に向け情報発信している。コメ、麦、そば、みそ、など多品種を生産して、町内外で販売している。また定期的にイベントを開催し、地域との交流も試みている。農園自体の貸し出し実績は一個人のみであるが、現在は土づくりの段階で、収量の増加には、今少し時間がかかる模様である。

【考察】

指定管理者の募集に関しては、すでにこの施設を利用して人への配慮は必要であると考えている。また市民農園のネーミングにこだわらず、発想の転換も必要ない時期にあると考える。

併せて町内外にいろいろな方法で発信することも大事だが、町内のイベントには積極的に参加し住民とのコミュニケーションを図りたい。

奥大山農業公社

○組織・事業状況

事務長、事務員それぞれ1名、作業担当2名である。また、応援要請に対して、美用営農組合と宮市法人にコンバインなどの機械の借り上げを含む協力を得ている。

【考察】

新事務長になってからの農家の評判は良いようである。受託面積については増

やすように努められたいが、全体の課題としてこの状況でいつまでやれるか不安を抱えながらの運営である。町全体で営農に対する指針を確立する必要があると考える。

道の駅奥大山

○方針と店舗内の状況

- ①PR活動の強化
- ②コレクション系の商品イベントの積極的活用
- ③品揃えの強化

【考察】

物産館マルシェで10万8千人。全体として約3500人増となり、それに伴い売り上げも増加傾向である。レストランにおいては料理長が変わりニーズに対して柔軟に対応できているが、今後、奥大

山ならではの特長をだすことを期待したい。また、団体客に対する送迎の方法や、そのドライバーに対する待遇など一考して頂きたい。

目標の2300万円を達成できる見通しである。今後も「生きがい」、「元気づくり」を基本コンセプトにしながら隣の「マルシェ館」とあわせ両施設の長所を生かして、相乗効果を発揮し江府町の名所の一つとなることを期待する。



道の駅奥大山

NPO法人「こうふのたより」

○業務内容・事業報告

江府町集落支援設置業務につき受託内容など説明があった。現在は情報の収集段階であり、広く町民に認知していただくように情報提供をしている。

- ① 駅中文庫設置
- ② 移住者の会設立

- ③ ネットワーク江府
- ④ 空き家バンク
- ⑤ ゲストハウス等について実施中。

【考察】

業務については3名で分担しているが、作業は共同で行っている。コミュニケーションの強化は必須であるが、現在のところ滞りは見られない。しかしながら更



チロリンハウス2階 NPO法人「こうふのたより」

江府道路宮ノ谷トンネル工事

○工事概要

国道181号江府道路宮ノ谷トンネル工事・下安井ノ洲河崎間・延長416m
工期・平成31年8月22日まで。

なる効率化、実効性を高めるためチームリーダーを選任するなど組織の在り方について、今一度検討されたい。

【考察】

全体の進捗率は30%でトンネル工事本体の進捗率は70%であり予定より早く進んでいる。現在3名の交通警備員を配置し工事の安全には万全を期しているが、今後とも、地域住民に対し十分配慮をしながら無事に工事が完成することを望みます。

米子道4車線化工事

○工事概要

米子自動車道・江尾地区路肩拡幅工事・工期平成31年3月22日・工事進捗率は30%です。

【考察】

今回米子道4ヶ所のうち2ヶ所の調査となりました。いずれの工区も順調に進捗しており、最新の

工法を取り入れ精度も高く施工している。また工事の安全も厳しく管理している。一般道路との接触点にはガードマンを配置しているのが確認された。一日も早く完成させこの地区の活性化に寄与されることを望みます。更にはこの機会をとらえて児童や学童にインフラ整備の実態や不可視部分の見学を実施し、地域建設への関心を高めるのも良いのではと考えます。



江府道路宮ノ谷トンネル

所管事務調査報告書

教育民生常任委員会

調査日 平成30年11月7日

社会福祉協議会

- ①平成29年度は初めて赤字となった。
- ②平成30年度で鳥取県社会福祉協議会補助事業が終了、また、善意銀行の預託金も減少している為、事業費補助並びに人件費の見直しが必要。
- ③住民のニーズを早期発見するために、行政との関係強化が必要。

【考察】

行政当局は、提起された問題を真摯に受け止め、住民のニーズに合った事業実施が行われるよう、また、生活困窮者等早期発見により早期対応が必要な場面が多くあると思われるため福祉保健課以外の課とも関係強化を図りたい。

町から人件費相当の助成金を頂いているが、時間外手当、研修旅費等も考慮の上、助成金の増額を検討されたい。

子供の国保育園

- ①今後の園児数の予測
H29年度78名
H30年度73名
H31年度73名
- ②今後の課題
現在、乳児保育、子ども支援センター事業、一時保育等の実施により、対応しているが、社会情勢の変化や保護者の就労形態の多様化に伴い、保育ニーズはますます多様化している。

子育ての不安や悩み、休日保育の希望はあるが、現状を捉え必要に応じて、今後対応を考えていく。また、入所時の低年齢化と個々の発達に配慮が必要な子が増えてきており、職員配置の見直しが望まれる。

【考察】

待機児童がないようにまた、園内での事故のないように適正な職員配置が必要で

あり、職場環境を整え職員確保を図りたい。

江府中学校

- ①今後の生徒数の推移予測
H30年度62名
H31年度58名
以降、30人台から40人台と大きく減少する。
- ②3年生のアントレプレナーシップ・スクールの取り組みでは江府町への思いが深まったり自己肯定感や達成感が高まったりする等の大きな成果があった。

生徒数が少ないにもかかわらず、いじめが認知されており、適切な生徒指導を行われない。また、生徒数の減少に伴い、部活動に弊害が出ているが、少人数でも対応できる部活動の内容等の検討を行わ

【考察】

生徒数が少ないにもかかわらず、いじめが認知されており、適切な生徒指導を行われない。また、生徒数の減少に伴い、部活動に弊害が出ているが、少人数でも対応できる部活動の内容等の検討を行わ

江府小学校

- ①今後の児童数の推移予測
H30年度78名
H31年度77名
H32年度82名
H33年度88名
- ②施設の状況
プールについてはリニューアル出来ているが、更衣室、トイレは老朽化している。ただ、フェンスは錆が出ているので生徒がけがをするのともある。近いうちに改修が必要と考えている。

放課後子供教室は今後とも有効利用を図られ、学校教育目標である「故郷を誇りに思い、自分からみんなと力いっぱい学ぶ子の育成」に向かって取り組みの強化を図りたい。

【考察】

放課後子供教室は今後とも有効利用を図られ、学校教育目標である「故郷を誇りに思い、自分からみんなと力いっぱい学ぶ子の育成」に向かって取り組みの強化を図りたい。

江尾診療所

- ①スタッフ数29名
医科12名
医事係・庶務係8名
- ②診察件数
医科1,758件
診療日数248日
歯科6,834件
診療日数228日

地域医療に重要な役割を果たしており、人口減少等により経営的には困難となりつつあるが、予防医療をはじめ、今後の高齢化に伴う医療費について次世代医療従事者の育成を含め、保健、医療、福祉、介護の連携を図りつつ、早急に体制づくりに取り組んでいただきたい。

【考察】

地域医療に重要な役割を果たしており、人口減少等により経営的には困難となりつつあるが、予防医療をはじめ、今後の高齢化に伴う医療費について次世代医療従事者の育成を含め、保健、医療、福祉、介護の連携を図りつつ、早急に体制づくりに取り組んでいただきたい。

地方行政調査報告書

教育民生常任委員会

調査日 平成30年11月28日

分離型義務教育 学校について

鳥取市立鹿野学園

鳥取市立 鹿野学園の概要

①鳥取市立鹿野学園は県内初めての義務教育学校として平成30年4月に開校した。そして旧鹿野小学校を流沙川学舎という名称で1年生から5年生が、旧鹿野中学校が王舎城学舎という名称で6年生から9年生が学校生活を過ごしている。



②開校までの歩み

平成25年1月 鳥取市校区審議会が「小規模校の統廃合や校区再編を含めた西地域の小中学校のあり方(案)」を発表、鹿野地域の学校のあり方検討が始まる。

平成25年2月 鹿野町PTA連合会がアンケートを実施

平成25年4月 地区説明会と地域座談会を開催

平成26年5月 鹿野地域の教育を考える会を設立

平成27年7月 「鹿野地域の学校のあり方(案)」について住民説明会を開催、小中一貫校(校舎分離型)の方向性を示す

平成27年9月 鹿野地域の教育を考える会が、「鹿野地域の学校のあり方」の要望書を鳥取市に提出

平成28年6月 鹿野地域小中一貫校推進委員会を設置

平成28年12月 鹿野地域小中一貫校について語り合う会開催

平成29年4月 保護者説明会を実施

平成29年6月 小中一貫校が「鹿野学園」に決定

平成30年4月 「義務教育学校鳥取市立鹿野学園」開校

5・4制のメリット

- ・児童生徒の心と体の発達の早期化に対応する。
- ・1年早くリーダー性を育てる。(5年生が最上級生、4年生がサブリーダーに)
- ・学習意欲、学力の向上が期待できる。
- ・教職員の意識改革

・中学校の小規模化に対応する。

【考察】

鹿野学園開校までの道は決して順調な場面ばかりではなかったことが推察される。

多くの人が委員会や検討会を組織し地域全体に小中一貫教育の趣旨を理解し義務教育学校設立の機運が自然発生的に高まってきたように感じた。



鹿野学園授業参観にて

江府町は平成32年度に義務教育学校設立を計画しているが、まだまだ地域や保護者、学校現場の理解や機運が足りないように思う。

そして、義務教育学校の運営に当たっては校長の明確な指針が必要と校長は語っておられた。校長の強いリーダーシップが求められる。教員もある程度、長期にわたって勤務することが求められると思われる。

私のひと言



侯野 加藤 泰巨

「ふるさと」の発見

もう少しで平成が終わり、新しい元号の時代がやって来ます。楽しみながらオリピックや万博もあり、古稀を迎える私もなんとか元気でいたいなと思っています。そのためには、自分に合った運動をして健康維持をすると同時に、今までできなかった趣味の活動を始め、人の中にも努めて出るように心がけているところです。

こうして始めた趣味の一つが絵手紙を描くことです。退職後、ふと、ふるさとの草木や風景、作物などの何気ない一つ一つに心が打たれるようになったのです。そして、この感動をなんとか自分の手で残したく、娘が使っていた水彩道具を使い、画面の小さい葉書にならと気軽に描き始めたのです。最初に、畑からとれた「大根」を描きました。そ

して、自分で育てたという喜びの言葉を絵に添えました。当たり前のことですが、作物には作り手の愛情が注がれていることをしみじみと感じました。

次に、ウォーキングの道端に咲いていた「ホタルブクロ」を見て、季節の虫を連想しながらこの花を描きました。前から草木の名前の由来に興味がありましたが、それ以後、道端の命ある草木の移ろいが余計に楽しみになりました。

また、江府町の風景もいくつか描きました。描く内に、大山や烏ヶ山を見ると、正に「大山さん」に見守られているようで安心感が生まれることを強く感じるようになりました。

さらに、夏休みのことです。旧侯野小学校周辺を県外に住む孫を連れて散歩していたとき、小四の子が「この景色いいよね。あつち（今自分が住んでいる所）にはないよね。こんなきれいな所に住みたいな」と、高台から見下ろす集落の家々と山並みの見える風景を指さして言った言葉が強烈に耳に残りました。それまで気に留めることがなかった風景です。ここも描きました。

この他にも、江府町にはまだまだ気づかない魅力がたくさんあると思います。これからも、新しい発見があることを楽しみにしているところです。

人とのつながり —スクールソーシャル ワーカーの役割—



スクールソーシャルワーカー
坪倉 八重美

私はスクールソーシャルワーカーという仕事で江府町に勤務して今年度で7年目になります。私の日々の活動について少し紹介させていただきます。

近年、全国的にいじめや児童虐待、貧困など子どもたちの置かれている環境の課題はより深刻になってきています。困難な状況に至る場合、多くは様々な要因が複雑に絡んでいます。子どもたちが置かれている環境にも働きかけていく役割が必要であるということから、環境の調整役として福祉の視点をもったスクールソーシャルワーカーが教育現場

に導入されるようになりました。国の事業としては10年前から、江府町では7年前から導入されています。子どもたちが困難な状況に直面した時、私たちワーカーは、子どもと環境がお互いに影響しあっているという視点でとらえます。そして、状況や課題を整理し、環境の改善に向け、子どもたちだけでなく子どもたちを取り巻く、家庭、学校、地域にも働きかけながら活動します。

子どもたちが生活する環境は、人とかかわりやつながりでつくられ、その中で子どもたちは成長していくのだと思います。誰かとのつながりのどこかに子どもの気持ちの居場所があれば、また明日から頑張れる力になると思います。

早い段階からスクールソーシャルワーカー制度を取り入れられた江府町には、子どもたちへの深い愛情を感じます。その環境で働けることを嬉しく思います。それぞれの子どもたちが持っている力を十分に発揮できるように、これからも人と人をつなぐ環境づくりのお手伝いをしていきたいと思っています。



平成の世ものこりわずかにになりました。いよいよ新庁舎建設、奥大山スキー場の指定管理の方向性が見えてきました。町民の皆様より頂いたご意見をしっかりと受け止め、議会で議論を尽くし町民の負託にお応えするように、議員一人ひとりが精進し議会活動に取り組んでまいる所存であります。

今年も住民と議会の情報共有の「議会だより」のご愛顧をよろしく願います。

三輪 英男

広報公聴常任委員会

委員長 上原 二郎
副委員長 三輪 英男
委員 三好 晋也
川端登志一
森田 哲也

